

若者が希望もてる港区にします

3つのゼロ実現します

- ① 保育園の待機児ゼロ
- ② 特養ホームの待機者ゼロ
- ③ 75才以上の医療費ゼロ

放射線量の調査を実施

区内の公園や施設で放射線量調査を実施してきました。
子どもたちを内部被ばくから守ろうという保護者の方々へ結果も知らせました。



少年野球のキャプテン フットサルチームのリーダー

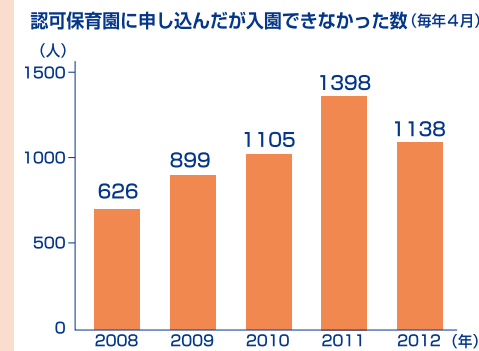
三光小学校時代には、少年野球チーム「三光クラブ」でファーストでキャプテンを務める。
今は、フットサルチーム「港南FC」の代表として活動。港区にフットサル場をつくる運動の中心として区長要請行動にも取り組み、芝浦中央公園、芝公園のフットサル場設置に結びつきました。



人の痛みがわかる…根本まさしさんはこんな人

認可保育園に申し込んでも入れない1138名

保育園が足りません。4月に認可保育園に入園を希望しても入れなかった子どもが1138人もいます。保育園に入れなければ、両親のどちらかが仕事を辞めなくてはなりません。悲鳴が上がっています。
根本さんは、待機児童をゼロにするため、認可保育園の建設を急ぐと提案しています。



特養ホームも足りません

今年1月末に締め切られた特養ホームの申込者は365人。昨年一年間に入所できた方は151人です。この数字で比較すると214人が申し込んでも入れません。
これが実態なのに、現区長は、今後の特養ホーム建設計画を持っていません。
「安心して特養ホームに入れるよう、建設計画を急ぐ」と根本さんは意気込みます。
また、75歳以上の医療費無料化について、「豊かな財政を使えば実現できる」と主張しています。

若者が港区に住めるよう 家賃補助制度を復活します

防災対策をすすめ
安心して住める「まち、にします

港区の財政はトップクラス

積立金は1267億円も

- 財政力指数
- 実質収支比率
- 経常収支比率

23区で
1位

「港区にすもう(住もう)会」ユニークな運動で成果

「港区は家賃が高く、青年は住めない」という声がたくさん上がり、家賃補助制度を実現しようと始まったのが、「港区にすもう会」です。根本さんも中心になり運動し、1992年に月3万円の家賃補助制度を実現しました。根本さん自身もこの制度を使って、区内に戻ることができました。しかし、現区長が家賃補助制度を廃止(2005年度)してしまったのです。

原爆写真展企画の中心メンバー

白金地域で毎年行ってきた「原爆写真展」は、「準備の苦労もある」と言いつつも、根本さんは、「参加した親子が、原爆の悲惨さを真剣に見つめる姿に出会うと、苦労は吹っ飛ぶ」と中心になって活動。

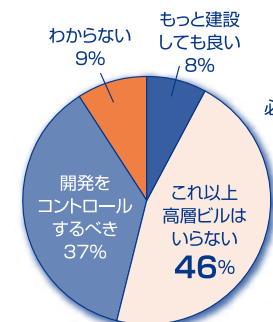
東日本大震災の被災地ボランティア

根本さんは、甚大な被害を受けた宮城県石巻市を中心に救援ボランティア活動が続けてきました。「あなた方が来てくれるから、生きる希望がでてくる」と、被災者からの感謝の声を聞き、「自分が励まされる。ねばり強い支援が今後必要」と力を込める根本さん。

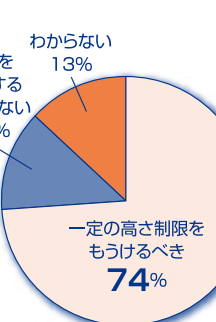


「これ以上超高層ビルはいらない」が区民の声

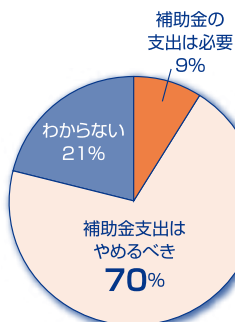
再開発による超高層ビル建設について



建物の高さ制限について



市街地再開発事業の補助金について



100メートルを超えるビルが区内に146棟(計画も含め)もあります。都内の超高層ビルの4分の1が港区内という異常。
現区長は、「良好な都市空間」などと今後も超高層ビルを建て続ける方針です。森ビルなどの大企業がすすめる再開発事業に、任期中の8年間で124億円も支出。今後6年間で216億円も区民の税金を流し込む計画です。

日本共産党区議団の「区民アンケート」より